

第 160 号

あおもり 町連だより

平成 13 年 10 月 発 行
青 森 市 町 会 連 合 会
T E L 017 (734) 2 5 8 4

ごみ収集所へ旗・ポール

平成13年度
市政懇談会

道路除雪テーマに意見

青森市町会連合会は7月22日(日)午後2時から市文化会館で、平成13年度市政懇談会を開き、雪対策に視点を変えて「道路除雪を中心とした雪対策のあり方」をテーマに、行政へ市民の声を届け、市の施策へ反映するよう求めました。

懇談会には市町連から佐藤久雄・会長はじめ副会長・部会長、常任理事、地域協議会長、地区連合町会長ら49人、市側から佐々木誠造・市長以下関係部課長が出席しました。

初めに佐藤会長が「市民生活に様々な影響を及ぼしている雪処理のため、町会と行政が協力し合いながら地域住民が冬場を安全で快適に暮らせるよう、住民と一緒に取組んできましたが、高齢化の進展、ごみ分別収集の実施など環境の変化に伴い、道路除雪のあり方を見つめ直す時期と考えられるので、忌憚のない意見交換をお願いしたい」とあいさつしました。

これに対し佐々木市長は「私が市長に就任して間もなくの平成3年5月に「雪総合対策指針」をつくり、

克・利・親雪を含めて雪と関っていく方向を定め、さらに8年10月には「雪処理基本計画」を作成、本年度は雪総合対策を推進するために庁内横断的組織・連絡会議を編成、また雪と道路に関する総合的地図「ハザード



会 場

ド・マップ」を作成、さらに高齢者や障害者の福祉向上に、国の指定を受けて「冬期バリアフリー計画」を策定する一など、雪対策に力を入れて来ましたが、この懇談会での各位

の意見を市政に反映したい」と述べました。

このあと、市町連側の副会長・部会長、常任理事がそれぞれの立場で市に対する意見、要望を述べ、参加者によるフリートーキングを展開しました。市側のおもな回答は次のとおりです。(カッコ内は質問部会)

「雪を資源とした街づくり」(総務部会)

「雪は資源、財産である」をスローガンに、スポーツや観光イベントの開催をはじめ、豊かな自然と調和した魅力ある街づくりを目指す。

冬の都市のあり方を学ぶため、来年2月・青森市で世界10カ国による国際会議「北方都市会議二〇〇二」を開き、国内外の雪国都市と積極的に交流し、雪や寒さに関する知識と経験を学びたい。

今年10月には「雪国学」研究センター(仮称)を設立し、市民、学会や企業、行政の強い連携のもと、雪に関する国内外の研究機関による研究成果の情報収集、応用技術の開発や生活文化の研究を行い、雪国の暮らし、文化、産業など幅広い分野に取組み、冬でも住んでみたい・うれしい街づくり」に努める。

また、今年12月・雲谷にオープンする芸術創作劇場(仮称)では、冬の間、雪を蓄え、夏場に冷房に使うというシステムを導入し、雪を環境に優しい冷熱エネルギーとして利用することに取組む。(2面へ続く)

玄関前の大雪塊は除去

(1面から続く)

「全面委託工区」(建設部会)

除雪、排雪とも業者の自主判断で実施する全面委託工区における委託料は、作業委託契約書で定めており累計降雪量が契約書の範囲外(契約書より多い、少ない)であったときは、業者と協議のうえ減・増額変更する。経費の支払いは、過去10年の平均降雪量6百26センチを基準とし、多く降る工区には除排雪の回数を多く算出している。

「交差点の除排雪」(交通安全防犯部会)

除排雪作業は深夜の限られた時間に行わなければならないし、市街化の進展に伴い雪押し場が減っているため、一時的に交差点等に雪盛りせ



ごみ収集所

ざるを得ない。これに住民から出された雪が積まれることもある。随時パトロールし、車や歩行者の安全通行に支障となる雪盛りを速やかに取除くようにする。地域住民も交差点への雪出しを自粛してほしい。また全面委託工区を市内中心部まで大幅拡大したい。

「ごみ収集所の除雪」(環境衛生部会)

冬期間のごみ収集場所が判るよう市で統一した旗とポールを作って全

資源ごみの分別、まだ不十分

環境衛生と女性部会 合同で収集場、処理場視察

市民へマナー向上呼び掛け必要

市町会連合会の環境衛生部会と女性部会は6月27日、4月から全市一斉に始まった資源ごみの分別収集のその後の状況について、松原、北赤坂の両町会のごみ収集所、梨の木清掃工場、原別と油川の処理業者を見学しました。この合同見学会には、市清掃管理課の担当職員と両部会員ら23人が参加しました。

松原、北赤坂両町会のごみ収集所は、ともに小屋方式でしたが、資源ごみの分別状況は、しっかりと分別されていた町会と、混入していた町会との差が見られました。梨の木清掃工場では、改修工事中



ごみ処理工場

町会へ配布し、その目印のある収集所へは寄せ雪をしないよう、除雪業者に徹底させる。

「玄関前の雪塊の除去」(福祉部会)

機械除雪では、どうしても寄せ雪が残るが、極端に大きい雪塊は取除くよう業者に指導している。高齢者宅に旗などで目印を付けることは、防犯やプライバシーの問題もあるので、慎重に対応したい。

「バス停の排雪」(女性部会)

交通部で東部、西部の両営業所に

- ①路線パトロール員を各4名
- ②バス停除排雪要員を各2名を配置
- ③乗務員によるボランティアグループ約10人でバス停の除排雪に努めているほか
- ④国、県、市の道路管理者に除排雪を依頼している。

「雪捨て場に私有地を借り上げ」

市税条例では、私有財産を無償で直接利用に提供した場合、固定資産税を減免できるが、未利用の私有地を雪捨て場に借り上げたケースがないので、内部で検討する。

原別の藤崎産業(株)はアルミ、スチール缶の処理業者、油川の株伸和産業はペットボトルと段ボールの処理業者で、それぞれ処理工程を見学しましたが、両工場とも他の資源ごみが混入しているため、資源ごとに分別して、それぞれ交換して処理しているとのこと。分別の手間は大変なようでした。

見学者一同は、資源ごみの分別に対する市民の意識はまだ不十分で、市民へマナーの向上を呼びかけることが必要だとの声が多く出されました。

◇カラス防止網を配布◇

市町会連合会は、7月2日から4日にかけて、青森市ごみ問題対策市民会議(会長 佐藤久雄・市町連会長)が提供したごみ収集所用のカラス防止網を、今年度希望のあった2百41町会へ計4百7束を、市町連事務所で配布しました。

4連合町会でパレード

交通安全 危険54カ所を診断

「祈願祭」夏の交通安全運動行事の一つとして7月19日、広田神社で交通安全祈願祭が行われ、佐藤久雄・市町連会長はじめ市町連の各部役員が玉串を捧げ、市民全員の交通安全を祈願しました。

「危険箇所診断」

市町会連合会は本年5月、各町会から交通安全上、改善を要する危険箇所について要望を求めました。

これに基づいて7月12、13の両日にわたり、市町連交通安全・防犯部会、市の市民文化庁交通安全推進課と都市整備部道路維持課の三者が合同で、東部、西部地区に分け、ロードミラー設置要望箇所54カ所について現地診断を実施しました。

診断の結果については、8月24日付で交通安全推進課が要望町会に回答しました。



北方都市

「パレード」各地区の連合町会は、地域住民の交通安全意識の啓発のため、各地区の子供会、老人クラブ、女性部などの協賛で「事故にあわない、事故をおこさない」をモットーに、それぞれ交通安全パレードを展開しております。

今夏実施したのは次の4連合町会ですが、南部第三区は24年連続でやっております。

- 南部第一区連合町会（7月1日）
- 南部第三区連合町会（7月20日）
- 南部第八区連合町会（7月20日）
- 西部第五区連合町会（7月22日）

のぼりなどでムード盛り上げ

北赤坂町会 「北方都市会議」をPR

「北赤坂町会祭り」が8月19日(日)戸山団地公園で開かれ、近隣町会からも多数参加して大盛況でした。

北赤坂町会はこの祭りで、来年2月7日から10日まで「豊かな北のくらしを育む」環境・文化・生活」をテーマに青森市で開催される国際会議「二〇〇二年・北方都市会議」の成功と、住民協力への意識高揚を図るため、北方都市会議ののぼり、参加10カ国の国旗、横断幕を設置して

自主防災組織づくりなど課題に

◆新任町会長研修会◆



新任町会長

今年度新しく町会長に就任された59人を対象とした研修会が、6月26日・青森市福祉増進センター（しあわせプラザII浜町）で、41人が出席して開かれました。

佐藤久雄・市町会連合会会長のあいさつのあと

- ①町会活動と市の支援⇨青森市市民文化課生涯学習課・川村課長補佐
- ②自主防災組織づくり⇨同総務部総務課・相馬主幹
- ③青森市ごみ問題対策市民会議への参画

などについて研修し、新任町会長から、市に移管された後の街路灯対策などについて意見発表、質疑応答が行われました。

北部第3区連合町会で後潟自主防災会を結成

北部第3区連合町会（加入5町会）は9月2日、自主防災組織の設立総会を開き「後潟地区連合町会防災会」を結成しました。

青森市内で町会を単位とした自主防災組織は、寺町、幸畑ひばりが丘、宮田、桜川団地に加え、今年度から規約等を大幅改正して取組む南部第4区連合町会（荒川地区12町会）と北部第3区連合町会（後潟）とで、6団体（21町会）となりました。

ムードを盛り上げました。

また、同町会では会議のシンボルを形どった押し絵2点を青森市へ贈ったほか、毎戸に「北方都市会議」のステッカーを配布、来年1月27日(日)には青森県スレッドドッグ協会の特別協賛を得て「県下犬ぞりレース大会」の開催を計画するなど、住民の一層の意識高揚を図ることになっております。



